

彩の国東大宮メディカルセンター・眼科医長平松類さん(37)



探せ

筋」という筋肉のコリが和らぎ、老眼の症状が緩和される。という「目の健康法」を解説した1冊である。

著者はさいたま市にある「彩の国東大宮メディカルセンター」の眼科医長を務める平松類一の眼鏡を回復する本を含めて7冊の著作を持つ「多作家」だ。

「限られた診察時間の中で、よ

り正確に、より効果的に物事を伝える手段の一つとして、本を

「患者と医師の間で生じる軋轢（あつれき）の多くは、双方の間にある理解の違いが原因。これをなくすに

力を入れている。

どんなに多忙でも、患者との対話には細心の心遣いを忘れない。柔らかな物腰と落ち着いた語り口は、患者に大きな安心感

を与える。

『1日5分かけるだけ! 100円メガネで視力は回復する』（永岡書店刊）という本が話題だ。100円ショップで売っている安物の

老眼鏡を1日5分間かけて、100円以上先をボーッと眺めるだけで、水晶体を支える「毛様体

老くことを思いついたんです」と語る平松医師。事実、その著作を読んだ患者は県外からも多くの受診するが、本を読んだ

患者は最低限の知識を持っているので、同じ時間内で最も詳細な話ができる、理解も深まる。平松医師は本の「効果」を実感するという。

白内障、緑内障、加齢黄斑変性症など、年間600

ひらまつ・るい 1978年、愛知県田原市生まれ。昭和大学医学部卒業後、同大医学部眼科入局。同大学病院、今泉西病院（福島県郡山市）、三友病院（山形県米沢市）などに勤務の後、2012年より東大宮総合病院（信社）。趣味は読書。

（長田昭二）

（当時）現・彩の国東大宮メディカルセンターに勤務していた現在に至る。昭和大学と埼玉医科大学兼任講師。医学博士。最新刊に「黄斑変性・浮腫で失明しないために」「わかつやすい最新治療」「時事通

1800件の手術を担当。外来診療の他に手術指導で定期的に山形の病院に出向き、その合間に縛って執筆し、講演活動にも力を入れている。

どんなに多忙でも、患者との対話には細心の心遣いを忘れない。柔らかな物腰と落ち着いた語り口は、患者に大きな安心感を与える。

「患者と医師の間で生じる軋轢（あつれき）の多くは、双方の間にある理解の違いが原因。これをなくすには、まず医者が

「患者の話をきちんと聞くことが不可欠」と平松医師。「伝え上手な患者になる！」という著作があるのも頷ける。

その、患者の気持ちを理解していればこそ、丁寧な診療姿勢は、玉石混交の情報に翻弄される現代の医療消費者にとって、「理想の医師」の一つの姿であることは確かだ。